

各 位

2022年12月19日
株式会社リットーミュージック

10時間以上の音声動画と連動して、ポップスの現場で求められる能力を鍛える！
『ネオ・ソルフェージュ ポピュラー音楽のための読譜と聴音能力開発エクササイズ』発売！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『ネオ・ソルフェージュ ポピュラー音楽のための読譜と聴音能力開発エクササイズ』（古山丈 著）を、2022年12月16日に発売しました。

同書は音楽大学で実際に採用されたポップス向けのソルフェージュを書籍化したもので、和音の機能を食事に例えるなど、分かりやすい解説が評判となっています。

ポピュラー音楽の演奏家はもちろん、レコード会社や事務所のスタッフなどの現場スタッフにとって必須の聴音と読譜能力を身に付けるのに最適な1冊だと言えるでしょう。またコードに苦手意識を持っているクラシック畑の演奏家にも、大きな助けとなるはずです。

しかも優に10時間を超える音声動画と連動することで、さながら授業を受けているかのように読み進めることができるのも本書の大きな特徴。繰り返し学習することで、聴音と読譜の能力が向上し、コード理論も身に付けられるはずです。

聴音能力と耳コピカの違い

聴音能力を鍛えると「耳コピカが付く」と言われたりします。ある意味ではそうとも言えますが、実はある意味では違っても言えます。私は学生時代ソルフェージュの授業で聴音は得意だったので、「耳コピカ」には自信がありました。短い音楽なら大体1〜2回聴いたら正確に楽譜にしたり、DAWに打ち込んだりできておりました。そんなこともあり、若い頃にメロやカオケの制作に従事した経験があります。この仕事は原曲を正確に聴きとり、DAWで再現するというものです。まさに耳コピです。そして、その仕事で洗礼を浴びることになります。そこで耳コピと、ソルフェージュの聴音は全く違ったものだったのでした。ソルフェージュの授業では主にピアノを使ったり、オケストラの音源を使うこともありますが、着メロやカオケはほぼJ-Popの曲です。聴音ではJ-Popのようにドラムやギターやベースが出てくることはありません。とは言え、ギターもベースも音は音、多少のバンド経験もあったので、間違った耳コピでできるとは思っていました。実際そのつもりで作った自信満々でデータを納品しました。すると予想もしなかったことに、ダメ出しの嵐だったのでした。やれギターのボンキングが間違っている、ドラムが違う、ベースも違う……違う、違うの間違いだらけだったのです。にもかかわらず信じられない経験でした。しかし、ダメ出しをした先輩の作ったデータの完成度は素晴らしいもので、うの音も出ませんでした。正直打ちのめされた。きっとその先輩は考えられないほど、聴音能力の高い人なのだろうと思いました。ですから後日、その先輩に尋ねました。どうやらそんな聴音能力が身に付くのかと、どんなレベルのソルフェージュをやっていたんだと。すると先輩は言いました。「自分は聴音は全然できません。もちろん絶対音感もない。あんなのできる人すごいと思う。私には意味が分かりませんでした。」

からかっているのかなと。でも、もちろんそういうことはありません。単純にこの「耳コピ」の仕事において必要なのは、ソルフェージュの聴音能力とは違う能力であることに他ならなかったのです。では「耳コピ」と「聴音」の何が違うのでしょうか。もちろん先ほど挙げた、ギター、ベース、ドラムなどのバンドおよびシンセのサウンドという構成の違いが大きいのですが、もう1つあります。聴音は1〜2回だけ聴いた音を反響的レベルで楽譜に起こすという作業なのに対し、「耳コピ」は回数無制限です。何度でも聴けるということは、音の取り違しがなく、聴こえる音を全部再現できるということです。つまり私には何度聴いても聴こえない、あるいは分からない音が、先輩は全部聴こえるということなのです。シャックでした。しかし教いもありました。先輩もこの仕事を始めた頃はダメ出しばかりで全然聴こえなかったというのです。それは私にもこの「耳コピ」の伸び代があるということだと、そう受け取りました。そして何十曲かこの仕事をやっている間に、少しずつですが、当初より音が分かるようになってきたのです。いわゆるバンドサウンド、シンセサウンドに耳が慣れてきたのと、楽器の構造やミュージシャンがよくやる演奏のクセなどから、音を予想できるようになってきたという事もあります。このことは私の中で、自分の聴音能力で全く打つ打てなかったという強烈な体験になりました。これを裏付ける話もあります。ある時、その先輩の耳コピの講座があり、それを音楽大学のソルフェージュの先生が受けに来たのです。その人は東京芸術大学の大学院まで出た、超優秀なソルフェージュの先生です。その先生が先輩の耳コピ講座で、私のように打ちのめされたのです。この間、ある意味私にホコとしました。ソルフェージュと耳コピは全く違って、それが自分より優秀な人も証明できたからです。私の場合、オケストラの現場で「聴音能力」がとでも役に立ち、着メロ、カオケ制作で「耳コピカ」を養いました。その能力は、クラシックやポップスの両方を仕事にする場合、必要なのかもしれません。逆にポップスに主眼を据える人は、「聴音能力」よりもむしろ「耳コピカ」の方が役に立つことは多いと思います。この事象からもある意味、ソルフェージュがピラミッドではなく、クラシックに特化したことが伺えます。

マスターリズムの基礎

FOREWORD

本書のPART2の内容は、音声動画とリンクしているものがあります。EXERCISEでの聴音はもとより、実際に音を聴いていただいた方が理解しやすい部分は音声動画を作成しました。動画へはQRコードからアクセスできるので、ぜひ参考にしてください。また、下記URLおよびQRコードは動画全体のプレイリストになります。こちらをクリックマークしておいたくも良いでしょう。

動画プレイリスト
https://www.rittor-music.co.jp/r/3122317106/1/



また本書のEXERCISEについては、その回答を書籍内に記してありません。以下のURLおよびQRコードから付録データ(PDF)をダウンロードできるので、活用してください。

付録データ(PDF)のダウンロード先
https://www.rittor-music.co.jp/r/3122317106/52/



▶ マスターリズムはミュージシャンの共通言語

マスターリズムは楽譜の一種ですが、クラシックで扱う通常の楽譜とは共通している部分とそうでない部分があります。

最も違う点は、コード中心ということです。逆に音符は必要最低限しか記載しません。音符が少ないが、慣れれば通常の楽譜より把握が容易である側面もあります。ですから普通の楽譜は音符が多くスラスラ読めない、いわゆる初見力が全然ないという人も、マスターリズムはスラスラ読めるようになります。

そしてビジュアルミュージックの現場においては、マスターリズムはミュージシャンの共通言語であり、通常の楽譜以上に重要で、現場に出る時に備えて、この機会にマスターリズムをしっかり読めるようにしておきましょう!

このステップでは、マスターリズムの読み方と作り方の初歩を学んでいきます。

まず読み方を知るために、マスターリズムに使われている記号を学び、通常の楽譜との表記の違いに触れていきます。

次に作り方を知るために、楽曲をマスターリズムに書き出す工程の手順と、表記法の基礎を学びます。

STEP 1-1 マスターリズムの読み方

右ページの楽譜がマスターリズムです。まずはマスターリズムに記載されている記号について知っておきましょう。

- コード
演奏の旋律を司る和音(響き)の表記です。
Aメロ、Cメロ、サビ、間奏などの場所を示しています。
■ レッテル(練習番号、リハーサルマーク)
Aメロ、Cメロ、サビ、間奏などの場所を示しています。
■ 小節線
なるべく1段に4小節ずつ表記します。
■ 拍子記号
1小節あたりの拍数を表します。J-Popはほとんどの曲が4/4つまり1小節4拍です。4/4はCマークで表します。
■ テンポ
J = (1分間当たりの拍数)で表します。
J = 60だと1分間に60拍で、1拍が1秒という計算になります。
■ 調号
オケや楽器を記載し、これによりキーを表します。
カラオケで高さ調整のボタンを押すと思いますが、「高さキー」と考えてください。
■ ト音記号
最初の小節の一番初めに必ず記載します。

■ リピート記号
クラシックの楽譜と違い、上下に髪のような線を描き存在感を強調しています。

■ その他を置き(メロディ、キム、その他)
ミュージシャンが必要に応じて演奏のために記載します。

ミュージシャンは、これらが記載されたマスターリズムによって曲の全体構成と響き(コード)を把握して演奏するのです。

EXERCISE 09 II、III、VIを含めた和音を聴き取ろう

VIの響きを確認しましょう(さまざまな配置でも同時に確認します)

1. 前項のI、IV、Vの課題のうち一箇所をVIに代えた聴音課題に挑戦しましょう。

次に、IIの響きを確認しましょう。


2. 上記のI、IV、V、VIの課題のうち一箇所をIIに代えた聴音課題に挑戦しましょう。

続いて、IIIの響きを確認しましょう。

3. 上記のI、II、IV、V、VIの課題のうち一箇所をIIIに代えた聴音課題に挑戦しましょう。

最後に6つの和音すべての響きを確認します。

4. I、II、III、IV、V、VIをランダムに並べた聴音課題に挑戦しましょう。



EXERCISE 10 演奏における和音を聴き取ろう

和音を自由に演奏した場合の響きを確認しましょう。実際の楽曲では和音は止まっているわけではなく、構成音(Iの和音の場合は「ド・ミ・ソ」)の中でさまざまな動き方をします。

- I、IV、Vをランダムに並べ、かつ和音を自由に演奏した内容の聴音課題に挑戦しましょう。
- 上記の課題のうち、一箇所をVIに代えた聴音課題に挑戦しましょう。
- 上記のVIを含む課題のうち、一箇所をIIに代えた聴音課題に挑戦しましょう。
- 上記のIIを含む課題のうち、一箇所をIIIに代えた聴音課題に挑戦しましょう。
- I、II、III、IV、V、VIをランダムに並べ、かつ自由に演奏した内容の聴音課題に挑戦しましょう。

次に、和音にメロディや、さらに自由な伴奏が乗った場合の響きを確認しましょう。メロディをはじめ、さまざまな動きの中で、和音の構成音以外の音が登場することもしばしばあります。例えば「ド・ミ・ソ」ですが、メロディや自由な伴奏の中ではしばしば「レ」やその他の音が登場します。その場合でも、伴奏部分がおおむね「ド・ミ・ソ」の響きであれば和音と見做します。

6. メロディをはじめ、構成音以外の音も登場する自由な演奏で、上記の1〜5と同じ条件の聴音課題に挑戦しましょう。



STEP 4-2 和音の機能

I〜VIの和音記号は、トニック、ドミナント、サブドミナントと呼ばれる3つの種類(機能)に分かれます。

なじみのない人にとってはちょっと難しい話だと思えます。そこで更なたえになりますが、和音記号を食材でイメージしてみます。

【米、肉をキノコ、卵をうどん、IVを野菜、Vを肉、VIをパン、】
 といった順番で考えてみましょう(笑)。そしてこれらの食材を3つに分けると、**主食、主菜、副菜**ということになります。

これらを組み合わせるのが食事ですね! 食事にもいろいろなパターンがありますが、何を食べていますか? 中心となる食材をイメージするとほとんどの人が、米、肉、野菜で考えると思います。コード理論も同じで、中心は、I、IV、Vとなります。この3つの最も基本的な組み合わせは、以下の3パターンです。

T = トニック I III VI
D = ドミナント V
S = サブドミナント IV II

T = トニック I 米 III うどん VI パン (主食)
D = ドミナント V 肉 (主菜)
S = サブドミナント IV 野菜 II キノコ (副菜)

しかし肉、米、肉、野菜だけでは飽きますよね。なので、他の3つの食材も献立に入れてみましょう。ただし、T = 主食、D = 主菜、S = 副菜のバランスは大切なので、T → S → D → T というフォーム(第2カデンツ)を守ったまま食事内容を変えてみます。

【例えばこのS=副菜を、左例題の代わりにII(キコ)にしたり
 【肉を入れたらOK!
 【また、T=主食を2つ入れたらOK!です】

【第1カデンツはT=主食、D=主菜のみ、第2カデンツはT=主食、S=副菜のみとなっていますが、皆さんもいろいろ食事の例はあります。急いで見てください】

この第1、第2、第3のフォームもT=主食は米からパンまでOK!へ、S=副菜は野菜からキノコへなど、食材をその時に食べたいものの種類に入れ変えて献立を作ることができます

■ 書誌情報

書名：ネオ・ソルフェージュ ポピュラー音楽のための読譜と聴音能力開発エクササイズ
 著者：古山丈／監修：山口哲一
 定価：2,200円(本体2,000円+税10%)
 発売：2022年12月16日
 発行：リットーミュージック
 商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3122317108/>

CONTENTS

- Part1 ネオ・ソルフェージュはどこが「ネオ」なのか
 - Chapter0 ネオ・ソルフェージュとはなにか?
 - Chapter1 従来のソルフェージュが目指しているもの
 - Chapter2 聴音能力と耳コピカの違い
 - Chapter3 ネオ・ソルフェージュで得られる能力
- Part2 ネオ・ソルフェージュ・エクササイズ

Step 1 マスターリズムの基礎

- Step 1-1 マスターリズムの読み方
- Step 1-2 レッテルについて
- Step 1-3 初めてのマスターリズム作成
- Step 1-4 マスターリズムの表記法
- Step 1-5 弱起と拍子の変更

Step 2 反復記号の使い方

- Step 2-1 反復記号の読み方
- Step 2-2 リピート記号を使ったマスターリズム作成
- Step 2-3 D.S やコーダを使ったマスターリズム作成
- Step 2-4 x 2 Only を使ったマスターリズム作成

Step 3 マスターリズムでの細かい指定

- Step 3-1 コードの表記
- Step 3-2 リズムの表記
- Step 3-3 メモ、その他の表記

Step 4 和音記号と和音の機能

- Step 4-1 和音記号
- Step 4-2 和音の機能
- Step 4-3 代理コード

Step 5 コードネームとキー

- Step 5-1 コードとはなにか？
- Step 5-2 キーとはなにか？
- Step 5-3 調号について
- Step 5-4 臨時記号の付くコード
- Step 5-5 音階について

Step 6 マイナーキーの正体

- Step 6-1 マイナーキーの3つの音階
- Step 6-2 マイナーキーの曲
- Step 6-3 マイナーのさまざまなキーと平行調
- Step 6-4 マイナーキーの調号
- Step 6-5 マイナーキーの3つの音階 (PART2)

Step 7 セブンスコード

- Step 7-1 メジャーキーのセブンスコード
- Step 7-2 マイナーキーのセブンスコード
- Step 7-3 音程のまとめ
- Step 7-4 セブンスコードの詳細

Step 8 セコンダリードミナント

- Step 8-1 セコンダリードミナントコード (三和音)
- Step 8-2 セコンダリードミナントセブンスコード
- Step 8-3 ディミニッシュへの置き換え
- Step 8-4 和音のまとめ

Step 9 さまざまなコード

- Step 9-1 サブドミナントマイナー
- Step 9-2 借用和音のまとめ
- Step 9-3 sus4
- Step 9-4 分数コード
- Step 9-5 テンションコード

Step 9-6 その他のコード

監修者のことば 音楽ビジネス専攻の音大生が「ネオソルフェージュ」を学ぶ理由

エクササイズ

- EXERCISE01 歌詞カードにレットルを付けよう
- EXERCISE02 マスターリズムを作成しよう
- EXERCISE03 歌詞カードを使わずサイズをメモしよう
- EXERCISE04 マスターリズムを作成しよう②
- EXERCISE05 演奏の順番を考えよう
- EXERCISE06 反復記号の設定を試みよう
- EXERCISE07 マスターリズムを完成させよう
- EXERCISE08 I、IV、V の和音を聴き取ろう
- EXERCISE09 II、III、VI をふくめた和音を聴き取ろう
- EXERCISE10 演奏における和音を聴き取ろう
- EXERCISE11 代理コードを設定しよう
- EXERCISE12 コードネームを判別しよう
- EXERCISE13 和音記号を判別しよう
- EXERCISE14 聴音課題
- EXERCISE15 聴音課題②
- EXERCISE16 和音記号とコードを判別しよう (G・D メジャー)
- EXERCISE17 聴音課題 (G メジャー)
- EXERCISE18 聴音課題 (D メジャー)
- EXERCISE19 キー、和音記号、コードの判別
- EXERCISE20 さまざまなキーでの聴音課題
- EXERCISE21 音階の課題
- EXERCISE22 聴音課題 (A マイナー)
- EXERCISE23 キー、和音記号、コード判別 (マイナー)
- EXERCISE24 さまざまなマイナーキーでの聴音課題
- EXERCISE25 マイナーキーの3つの音階の課題
- EXERCISE26 セブンスコード聴音課題 (メジャー)
- EXERCISE27 セブンスコード聴音課題 (マイナー)
- EXERCISE28 コード表の穴埋めをしよう
- EXERCISE29 音程についての課題
- EXERCISE30 セコンダリードミノナントの聴音課題
- EXERCISE31 セコンダリードミノナントセブンスの聴音課題
- EXERCISE32 デイミニッシュへの置き換え聴音課題
- EXERCISE33 借用和音その他の聴音課題

PROFILE

古山丈 (こやま・じょう)

作曲家。(株)トーン・グラデーション代表取締役。

大阪音楽大学作曲学科卒業。

朝日新聞社全国高校野球選手権記念大会、損保ジャパン、JR西日本、その他多数のテレビCM音楽を製作。

大黒摩季、ゆず、石井竜也、宮沢和史、その他多数のアーティストのライブやレコーディングにオーケストラアレンジやディレクションで参加。

羽佐間道夫、野沢雅子、山寺宏一主演の声優口演ライブにて、東京オペラシティ、いづみホールでキーボードソロとして出演。

神戸市室内管弦楽団の委嘱による弦楽合奏編曲多数。

また同楽団より、コンサートの企画、作編曲、司会を依頼され、ろうきんコンサート2018「J-Pop Strings Fes!!」をプロデュースし好評を博す。

近年はミュージカルの音楽制作にも関わるようになり、DAIONミュージカル第11回公演「ヒヒ伝説」にて編曲と音源製作を担当。2023年の新作公演では作曲編曲及び音源制作の依頼を受け、目下格闘中。

音楽書籍「リアルなMIDIの作り方教えます」(C)YAMAHA 楽譜アレンジ担当。

幅広いジャンルの音楽制作を手掛ける中で、特にオーケストラにおいて、

『バーチャル = DAWの打ち込み』

『リアル = 譜面を書く』

の両方において、これまで多数の仕事を取ってきた為、これらの双方を専門としている。

関西現代音楽交流協会会員。

大阪音楽大学ミュージックビジネス専攻、ミュージカルコース、作曲デザインコース 非常勤講師

ホームページ <https://joekoyama.com>

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やエンタメ情報サイト『耳マン』、T シャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp